

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>徳田橋架け替えの早期完成に関する要望</p> <p>一般県道大ケ生徳田線は、国道4号と国道396号を連絡する主要幹線道路であるとともに、矢巾町、盛岡市、紫波町を含め広域的に交通渋滞の緩和や産業の振興など相互連携を図るため重要な役割を担う路線となっております。</p> <p>近年は国道4号、国道396号の整備に伴い、本路線の果たす役割は益々増大しており、このことに対応すべく国道4号から徳田橋手前までの区間については整備が完了しておりますが、徳田橋並びに国道396号までの区間が未整備となっております。</p> <p>特に徳田橋につきましては、幅員も狭隘で老朽化による損傷も著しく、周辺市街地の整備による交通量が増加傾向にある中、円滑な自動車交通を阻害している状況であります。</p> <p>このことから県におかれましては、緊急地方道路整備事業（地域密着型）で一般県道大ケ生徳田線について平成23年度に事業採択を受けましたことに対しまして衷心より感謝申し上げます。</p> <p>徳田橋架け替え事業につきましては、現在、用地補償、物件調査等の業務を実施し架け替えについては32年度、事業年度については35年度までの期間で徳田橋の整備を進めているところであります。</p> <p>本路線における自動車交通は、平成19年4月の岩手医科大学矢巾キャンパス完成以降、薬学部の開学、医学部・歯学部の移転、平成31年5月の大学附属病院の移転計画、看護学部の開設計画、県立療育センター及び盛岡となん支援学校の移転改築整備の計画などがあるほか、平成24年にはドクターヘリの運航、県内災害医療の中核拠点となる災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟が完成するなど緊急車輛の交通も併せ、今後著しい交通量の増加が予想されるものであります。</p> <p>つきましては、安全で円滑な交通の確保を図るため、徳田橋の架け替えと本路線の未整備区間の整備が急務でありますので、附属病院の開院時期の平成31年5月までに完成供用していただきますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>現在の徳田橋は老朽化が著しく、かつ橋梁部及びその前後区間は、幅員狭小で大型車の円滑な交通に支障をきたしており、岩手医科大学附属病院等が矢巾町に移転することに伴い交通アクセスの利便向上を図る必要があることから、平成23年度に橋梁架替事業に着手し、平成26年度まで地盤調査や景観検討、道路及び橋梁の詳細設計、用地測量、補償物件調査、用地補償等を進めてきたところであります。</p> <p>平成27年度は、早期の橋梁工事着手を目標に用地補償、河川占用協議を進め、引き続き整備推進に努めていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一級河川岩崎川基幹河川改修事業の整備促進に関する要望</p> <p>本町を縦横断する一級河川岩崎川、太田川、芋沢川の基幹河川は、平成4年度に基幹河川改修事業として国の事業認可を受け、以降、平成26年度末には事業費ベースで47.5%の進捗率で河川改修事業が進められております。</p> <p>県都盛岡市と隣接する本町は、近年、市街化区域の急速な整備から人口増加に顕著なものがあり、町立小中学校、県立高等学校、県立産業技術短期大学校等、教育施設の整備が進んでいるほか、矢幅駅を中心とする矢幅駅周辺土地区画整理事業区域には大型ショッピングセンターや住宅地が形成され、中心市街地として整備が進んでおります。また、県内医療施設の中核である岩手医科大学の総合移転事業においては、平成19年4月に矢巾キャンパスが完成し、更には附属病院等の施設が順次建設される計画となっており、雨水流出量が今後とも増大することが想定されております。</p> <p>平成25年8月9日の大雨・洪水を受け、岩崎川に関しましては一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業として平成26年度から事業採択となり整備されることとなっておりますが、太田川、芋沢川につきましても過去に何度となく河川の氾濫による越流や河川施設に被害を受け、住宅地の浸水や農地への被害が発生し、住民生活に支障をきたしております。</p> <p>このことから、町民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを進めるため、本河川基幹改修事業の整備促進を図られますよう特段の御配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>岩崎川は、平成4年度から河川改修事業に着手し下流側から順次河道掘削、築堤、護岸及び橋梁等の工事を進め、北上川合流点から芋沢川合流点までの5.3km区間が完成しています。</p> <p>芋沢川合流点から県道不動盛岡線までの約2.6km区間については、床上浸水対策特別緊急事業として、7月に砂子田橋付近からJR橋梁付近までの工事に着手したところです。</p> <p>芋沢川については、これまでどおり基幹河川改修事業により実施します。芋沢川で浸水被害のあった薬師神社付近については、農業用施設の堰の改修について検討を進めており、早期に対応していきたいと考えています。</p> <p>太田川についても芋沢川と同様に基幹河川改修事業により実施します。</p> <p>今後、貴町をはじめ関係機関と連携を密にして早期の整備に取り組んで参ります。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業の整備促進に関する要望</p> <p>県都盛岡市と隣接する本町は、市街化区域の急速な整備から人口増加が顕著であり、市街化区域整備と都市環境整備は一体となった整備を進めなければなりません。市街化区域の整備が急速に進み、その雨水排水先として町の中央部を流れる一級河川岩崎川は特にも重要な役割を担っております。</p> <p>この、本町及び紫波町を縦横断しております岩崎川につきましては、東北本線までを事業区間とする一級河川岩崎川基幹河川改修事業により平成4年度に国の事業認可を受け河川改修事業が進められておりましたが、平成25年8月9日の大雨・洪水では、岩崎川橋、下海老沼橋から越流し、また河川堤防の決壊により、周辺住宅地の床上、床下浸水や、農地への冠水など大きな損害を与え、特にも下海老沼橋からの越流については、市街地中心部へ流入し住民生活に支障をきたす甚大な被害をもたらしました。</p> <p>このことから、県におかれまして一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業による整備をご検討いただき、平成26年4月に事業採択されたことに対しまして衷心より感謝申し上げます。</p> <p>これにより、東北本線上流約1.5kmを延伸した区間を、スピードアップした緊急整備が図られることと期待いたしますが、町民の不安はいまだ癒されていない状況にありますことから、町民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを進めるため、一刻も早い浸水対策特別緊急事業を整備促進していただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>岩崎川の床上浸水対策特別緊急事業については、昨年度、新たに事業区間となったJR橋梁から県道不動盛岡線までの約1.5km区間について、詳細設計・用地測量及び建物調査等を実施しています。</p> <p>平成27年度は、JR橋梁から県道不動盛岡線区間の用地取得を進めるとともに、砂子田橋からJR橋梁までの改修工事を推進することとしています。</p> <p>また、落橋した岩崎川橋の架け替え工事の完成を図り、下海老沼橋及び上海老沼橋の架け替えについても工事着手することとしています。</p> <p>県としては、貴町をはじめ関係機関との調整を図りながら、河川整備が着実に進展するよう取り組んで参ります。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>矢巾スマートインターチェンジ設置に伴うアクセス道路整備に関する要望</p> <p>本町は、県都盛岡市に隣接し広域都市圏の都市機能の一翼を担い、これまで着実に町勢が発展して参りました。現在では、JR矢幅駅の東西でそれぞれ施行している中心市街地の土地区画整理事業【矢幅駅西地区、矢幅駅前地区】や、北東北の物流拠点である岩手流通センターの機能拡大のための土地区画整理事業【広宮沢第二地区】により、住宅及び業務系の用地を整備し市街地形成を図り活性化に寄与しているところでもあります。また、県民医療の中核を成す岩手医科大学は、平成19年4月に薬学部の新設とともに開設した矢巾キャンパスが完成し、平成23年には医学部・歯学部の移転、平成24年にはドクターヘリの運航が開始されたほか、県内災害医療の中核拠点となる災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟も完成するなど被災地支援活動の拠点施設としても注目されております。更に大学附属病院の建設、看護学部の開設も順次整備することとされており、平成31年5月の開院を計画している状況であります。更には、同敷地内に岩手県立療育センター及び岩手県立盛岡とたん支援学校の移転整備も進められており、平成29年度開校予定となっております。</p> <p>このように現在展開しているまちづくりは、いずれも町民はもとより町全体の需要を充足するためのものであるとともに、県内全域や北東北を視野に入れた広域的な都市機能を整備しているものであり、時間や距離の短縮、安全性及び利便性が求められております。また、岩手医科大学附属病院の移転に伴う救急搬送や災害時における緊急輸送など、町内における道路事情は刻々と変化するものと容易に推測されるところであります。</p> <p>これらを踏まえ、平成20年度から国幹道である東北縦貫自動車道への連結について検討し、平成24年度には地区協議会を設立し、平成25年6月11日付けでスマートインターチェンジの連結許可をいただき、平成30年3月完成を目指し事業を進めております。併せて、スマートインターチェンジと主要幹線道路を結ぶ町道につきましても、安全かつ円滑にアクセスできるよう町道整備が必要不可欠であり、昨年度から測量調査設計に着手しているところでもあります。</p> <p>町中心部から近く、利便性に優れた矢巾パーキングエリアにスマートインターチェンジが整備されることにより、高速道路利用者の利便性向上はもとより、物流の効率化や企業誘致による地域産業の活性化、岩手医科大学附属病院・高度救命救急センターまでのアクセス性向上が期待できるとともに、矢巾町及び周辺地域を含めた広域の活性化に大きく寄与するものと期待できます。</p> <p>つきましては、流通業務や緊急時の車輛の交通増加が見込める広域かつ大規模な事業であること、また、周辺町道の整備には膨大な事業費が掛かることなどから、本町における厳しい財政状況をご賢察頂き、町道区間のアクセス道路整備に関しまして、岩手県からの強力な支援協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>(仮称) 矢巾スマートインターチェンジについては、既存の高速道路の利便性を高め、県民の安全で安心な暮らしを守り、活力ある地域社会の形成を図るために必要不可欠なものです。そのため、必要な予算を確保するよう国に要望しており、今後も貴町と連携を図りながら、整備促進が図られるよう国に対し要望していきます。</p> <p>また、矢巾スマートIC周辺道路のうち町道安庭線と県道の交差点については、平成27年度、右折レーン設置のための用地測量、補償物件調査、用地買収、物件補償等を実施することとしていきます。</p> <p>なお、上り線料金所から一般県道不動盛岡線までの接続道路については、平成25年度に事業着手し、平成26年度まで道路詳細設計、用地測量、補償物件調査を進め、平成27年度は貴町と連携を図りながら事業用地を確保するとともに、工事着手し、整備推進に努めていきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」の主要地方道上米内湯沢線以南への南進整備に関する要望</p> <p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、一般国道106号と連絡し、秋田市～盛岡市～宮古市を結ぶ地域連携軸の形成、盛岡都市圏西側の環状道路の一部の機能を担う重要な路線となっております。</p> <p>また、一般国道4号は東日本震災以降、三陸沿岸地区の支援においても基幹となっている路線であり、県内各地から盛岡都市圏への救急搬送や物流の面でも重要な役割を担う路線であります。</p> <p>しかしながら、一般国道4号の主要地方道上米内湯沢線以南においては、慢性的な渋滞が発生しているとともに、平成31年5月には三次救急医療も担う岩手医科大学附属病院が移転する予定となっており、更に交通量の増加が見込まれ渋滞の発生が懸念される状況となっております。</p> <p>つきましては、国道4号の混雑緩和と県内地域医療の中核を担う医療機関へのアクセス確保を図るため、一般国道46号「盛岡西バイパス」の主要地方道上米内湯沢線以南への延伸についてご配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、盛岡都市圏の交通を円滑にし、都市環境を改善するなど都市機能を高めるものであることから、2車線区間の早期4車線化及び南伸の早期事業化について国に対し要望していきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B
<p>経年劣化施設（煙山ダム）の早期整備に関する要望</p> <p>本町で管理している煙山ダムは、昭和42年度の竣工以来47年が経過し、施設の老朽化が著しい上、ダム下流域の住民に対する警報設備がなく、危機管理上の問題もあることから、本町では早期に整備・対応いただくよう国に要望してきたところですが、未だ着工に至っていない状況にありますので、県からも国に対し強く要請下さいますよう要望いたします。</p> <p>また、現在進められている煙山ダムの耐震性能照査の結果、大規模な対策工事が必要となった場合は、町で多額の費用を負担することが困難であることから、町を含めた地元負担の軽減についても、国に対し要請下さいますよう併せて要望いたします。</p>	<p>煙山ダムを含む盛岡南部地区の国営造成施設について、老朽化が進行しているため、現在、国の調査事業により、基幹的水利施設の機能診断や国営施設機能保全事業計画等の作成が進められています。特に煙山ダムについては、地域の防災上重要な施設であるため、老朽化対策に加え、耐震対策についても検討が進められているところです。</p> <p>県では、国営盛岡南部地区の早期着工に向けて、これまで、関係者への丁寧な説明と、煙山ダムの耐震性を含めて万全な事業計画の策定を国に申し入れしてきたところであり、今後とも機会あるごとに要望していく考えです。</p> <p>また、煙山ダムの耐震対策工事に係る費用負担については、全体の事業計画が未確定であり、現時点で負担額は示されていませんが、今後の事業計画の取りまとめに当たり、コスト縮減を徹底するなど地元負担の軽減を図るよう国に要望していく考えです。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>子どもの医療費助成の対象年齢拡大及び現物給付化に関する要望</p> <p>医療費助成制度は、医療費の経済的な負担を軽減するとともに、利用者が安心して必要な医療が受けられるよう全国の自治体で実施されています。</p> <p>制度内容については、各市区町村の施策により、単独による対象の拡大や所得制限の撤廃を実施し、より充実した助成制度を目指し努力しております。</p> <p>本町においても、医療費の自己負担軽減、所得制限の撤廃を単独で行っておりますが、特にも乳幼児のみならず児童、生徒の部分においては子育て環境の充実という面で、町民からさらなる制度の拡充を求められております。</p> <p>また、給付方法については、全国の過半数の自治体が現物給付方式を導入しており、特に東北ではこれまで岩手県以外は全ての県が導入している状況から、本県においても一部導入することが計画されました。現物給付方式のメリットは窓口での負担が軽減され、より安心して受診できることで、疾病の早期発見、早期治療が期待されることから、県民の福祉向上に向け前進したと捉えております。しかしながらすべての対象者に導入することが上記メリットを生かす上で望ましいと考えます。</p> <p>よって、岩手県統一による医療費助成制度の拡充（助成対象拡大、所得制限撤廃）を要望するとともに、国に対して現物給付方式に対する国民健康保険の国庫負担金減額調整措置の廃止を要望していただくようお願い申し上げます。</p>	<p>子ども医療費助成については、県では、人口減少対策としての総合的な子育て支援施策の一環として、市町村等と協議のうえ、窓口負担の現物給付（未就学児及び妊産婦を対象）と併せて、助成対象を小学校卒業の入院まで拡大することとしたところです。</p> <p>なお、実施時期は、対象拡大が平成27年8月、現物給付が平成28年8月からとしており、これに向けた取組を着実に実行しているところです。</p> <p>本県の子ども医療費助成制度について、更に拡充（財政対象拡大、所得制限撤廃）した場合、次のとおり県費負担が増大するものと見込まれることから、現在の厳しい財政状況の中で、更なる拡充は直ちには難しいと考えています。</p> <p>人口減少対策としての総合的な子育て支援施策については、今般策定する「人口ビジョン」や「ふるさと振興総合戦略」においても重要なテーマであり、引き続き検討していきます。</p>	盛岡広域振興局	保健福祉環境部	B

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
	<p>○医療費助成制度の拡充に要する県費                      (助成対象を中学校卒業まで拡大した場合)                      (対象年齢の拡大) 約5億円                      (所得制限の撤廃) 約3億6千万円                      なお、本来、乳幼児や子どもの医療費助成は、自治体の財政力の差等によらず、全国どこの地域においても同等な水準で行われるべきであり、県の政府予算要望において、国において全国一律の制度を創設するよう要望しています。                      現物給付した場合の減額措置の撤廃については、毎年度、県として国に要望しているところであり、今後も引き続き国に対して要望していきます。</p>			